内視鏡外科手術における当院臨床工学技士の取り組みと役割

岐阜赤十字病院　臨床工学技術課

梅染 佳記

【背景】

内視鏡外科手術において使用する医療機器は高度複雑へと進化し、医師や看護師のみで取り扱うことは困難であり本来の業務を越えている。また不慣れな操作は安全性を損なうため専門性が求められ、医療機器に特化した臨床工学技士（ＣＥ）が担うべきと考える。当院もこの必要性を重視し内視鏡外科業務を開始した。

【経過】

２０１７年３月より内視鏡システムや周辺機器の術前点検、開始時の立会いと動作確認、鉗子や硬性鏡の滅菌前点検を実施。１０月からは看護師の協力も得て清潔介助業務を開始した。また、医師に対して機器や器材の特性など情報提供を行い、看護師へは医療機器の安全な取り扱いについて随時連携に努めた。

【考察・まとめ】

取り組みから短期間ではあるがトラブルは発生しておらず、予防的管理の効果がみられ安全性が向上したと考える。内視鏡外科領域では多くの医療機器を扱うことから業務の分担と連携が重要であり、我々ＣＥは常に安全で安心して使用できる医療機器を整備することである。これにより医師が不安を抱くことなく手技に集中できる環境を提供し、看護師は本来の業務である手術看護に集中することが可能となる。

チームの一員としてＣＥが関与することは重要であり、引き続き手術の安全性と質の向上を追求していきたい。

JSES2018